

あかいわの大地の成り立ち

⑬ 赤磐市の形



赤磐市の南部にある熊山からは四国の北端を見ることができます。この四国は、南半球のオーストラリア大陸と形が似ています。四国の面積はオーストラリア大陸の面積の0.25%と大きさは格段に違うのに、形が似ているように見えるのは、四国とオーストラリアが海に囲まれているからでしょう。

赤磐市は内陸部にあるので、市の形を思い浮かべることが難しいものです(図1)。市民の皆さんは、「赤磐市の形」をどのように説明しているのでしょうか。赤磐市が、四国と同様に地球上のどこかと形が似ていれば、「赤磐市の形」をもっと説明しやすくなります。赤磐市の形は、南部では旧熊山町と旧山陽町の部分が短い2本の脚のように見え、中央部の旧赤坂町では胴のくびれのように見え、北部の旧吉井町は大きい頭に見えます。「赤磐市の形」は、胴のくびれと短い2本の脚が特徴です。

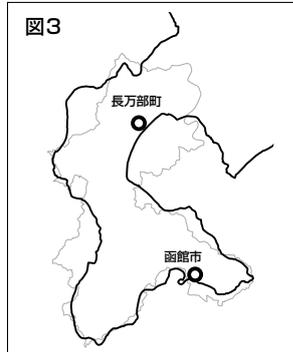
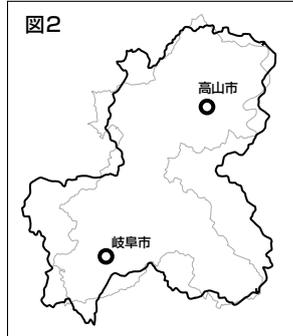
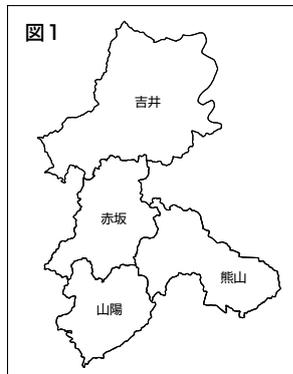
地図帳を使って形状が赤磐市に似ているところを探してみました。中央部の胴部のくびれに注目してみると、「大陸」・「国」の中では細い形をしたものはあるものの、くびれがあるものを見つけることはできません。日本国内の「県」の中では内陸県の岐阜県が、くびれを示すだけでなく短い2本の脚も持っています。似ていますね(図2)。日本の「市」の中でくびれを持つ市は15ほどあるものの、残念ながら、2本の短い脚がありません。

地球史研究所の一番の推しは、北海道南端の渡島半島です(図3)。渡島半島の面積は8000平方キロであり、赤磐市(209.4平方キロ)の38倍です。大きさは違うけれども、胴のくびれと2本の短い脚が見て取れるので、2つは似ているように見えます。もちろん過不足はあります。赤坂の普門院がある山口地区や吉井の稲蒔・暮田地区では渡島半島の領域からはみ出していますし、竜天の天文台の西には不足分があります。

これらの相似はいかがでしょうか。「岐阜県や渡島半島に似ている」と言えば、「赤磐市の形」を説明しやすくなりませんか。皆さん、赤磐市に似た形を、地図帳で調べてみましょう。

もっと知りたくなった人は、地球史研究所の先生に聞いてみよう!

◇地球史研究所 ☎956-3538 (※不在のときもあります)



●問い合わせ先 / 政策推進課政策企画班 ☎955-2692

